スコーレ・マスターズ通信

第29号
平成20年11月25日

秋のマスターズ行事は恒例の滝行＆ゴルフ！

御嶽山の新滝にて滝行を開催

11回目の滝行に14人が参加

9月13～15日の3日間、木曾御嶽山3合目の新滝で、恒例の滝行を実施。参加者は昨年同数の14人。当初はマスターズメンバー有志のみでスタートした滝行も、今年でなんと11回目。

新滝の水は、真夏でも10℃以下。しかも遮るものが無く、直下するので、滝に打たれる衝撃は大きく、入っている時間は僅かですが、かなりな荒行です。

今年は4人の初参加がありました。各人、想像を超える水の圧力・量に圧倒された様子でしたが、事前のアドバイスと呼吸法鍛錬が功を奏したか、早くも滝の芯に近いところまで入る人が出るなど、先輩たちを驚かせました。

今回は、例年と違って、滝上方から興味深げに見学する観光客が多く、滝から上がると拍手が沸いたり、少し落ち着かない滝行となりました。

滝から上がれば、「すごい食欲、すすむお酒、弾む会話」と、どれをとっても非日常の世界に浸ります。宿泊先の「大又山荘」の方々には、毎年本当にきめ細かくお世話いただき、ただ感謝あるのみです。年に一度のこの体験が、参加者にとって、明日へのエネルギー発揚の源となっています。

川上杯懇親ゴルフ大会を開催

今年も腕自慢が中津川に集結

11月14日、恒例の川上杯懇親ゴルフ大会を中津川カントリークラブで開催。4組14人が腕を競いました。

川上哲治協会理事は、一昨年「ゴルフ狂川上哲治」という著書を出版。内容はゴルフに対する飽くなき執念が、随所に読み取れる内容でした。当日は、これを証明するかのような堅実で安定したプレーに、「88歳とは思えない」と感嘆の声が上がっていました。

好天無風という最高のコンディションの下、優勝は太田眞一氏、準優勝は石田昭義氏、と常連メンバーが入賞、三位は重鎮の市原聖功氏でした。マスターズ役員はいつも通りの実力を発揮(！)し、最下位やブービーをはじめ下位入賞となりました。

表彰式には、永池会長が参加され、各賞入賞者の楽しい弁が飛び交いました。

また、懇親会では、川上氏より米寿を祝した似顔絵入り記念ボールが全員に寄贈され、最高の参加賞になりました。次回まで、さらに腕を磨くことを約して、賑やかなうちに散会となりました。

滝行参加記　ー初めてのチャレンジー

埼玉ブロック　石丸　聡志

「あ～、行くのやめようかな～。」という気持ちで今回の滝行の旅が始まりました。

過去の参加者の感想で、頭痛がしたとか、2回目は部屋で休んでいたとかという生々しい声と、滝行に参加する前週、海外出張の機上で初めて気を失って倒れたことが重なり、気が重くなっていました。

木曽福島駅に到着すると天気はおだやかな日差しがいっぱいで、関東圏からの顔なじみメンバーに加え、近畿方面から初参加された方々が今年のマスターズ総会で同室だったこともあり、段々元気が出てきました。

さて、同日の午後いよいよ初めてのチャレンジです。オリエンテーション後、軽く準備運動をして、いざ新滝へ。初めて草鞋を履き、身体のあちこちを塩で清め、般若心経を唱え、順番が来るまで経験者諸氏の行を見ているのですが、いとも簡単そうに滝に打たれており、水量も「この程度なら、なんとかなりそうだ」という邪心が過ぎりました。ところが、前の初心者の方々の必死な姿や、遠目に見ていた滝が近づくにつれ水量観がより現実のものとなり、自分の番が来たときには、緊張感でいっぱいでした。導師と介添者の助言を受け、とにかく口を大きく声を出し続けることで、滝の中へ入っていきました。わけもわからないなか、なんとか滝から脱出し、身体を拭いてもらいやっと一息つくことができました。その途端、先に聞いていた、頭痛を感じるようになりました。頭の上に茶筒程度の穴が開いたような、なんとも言えない鈍痛でした。　（次頁へ続く）

滝行参加記

2日目も好天に恵まれ、午前、午後とそれぞれ1回ずつ滝に打たれましたが、何とか周囲のご支援をいただき、お陰でノルマを全うできたという感じです。また安堵感と心地よい疲労感がありました。初心者の方々は全員、3回の滝行を全うすることができ非常に喜ばしいことであり、また滝行をほんの一部ながら感じ取ることができ、それぞれ今後の糧にされることと思います。

今回は、入り易い状態だったということですが、機会があれば厳しい状態にもチャレンジしてみたいと思います。

最後になりましたが、導師、介添者の方をはじめ、皆様方のご協力に感謝するとともに、暗い気分を明るくしてくれた、山荘の笑い上戸のレディースには格段のお礼を述べたいと思います。笑う過度（門）には福来る！

6月14・15日のマスターズ宿泊研修より(2)

今、生かされていることへの感謝

栃木ブロック　川田昌孝

私は昭和13年1月、栃木県宇都宮市に生まれ、育ちました。スコーレ学習暦9年になります。

作家の立松和平氏は栃木県人の気質を「気が優しくて、穏やかな性格」を持っている、その反面「気骨が無い、自己主張ができない」と評しています。

私も立松氏が言われるように「気が優しく穏やかだけれども、自己主張ができない」根っからの栃木県人として成長しました。この持って生まれた私の性格が40数年間の会社勤めに、ある時はプラスにある時にはマイナスに作用しました。

私の社会人としてのスタートは昭和30年代の初め、戦後の復興途上でしたが「鍋底景気」と言われた不景気で就職難の時代でした。銀行、自動車メーカーなど数社を受験しました。それぞれ一次試験には合格しましたが、二次試験ではことごとく不合格、進路指導の先生からは「片親」のせいかもしれないと言われたものでした。

父親は昭和20年2月23日に戦死。まだ片親の子は「暗い」と言われた時代でした。

それでも伯父の紹介で中堅の農機具メーカーに就職できたのが19歳の春でした。この社会人1年生に待ち受けていたのが厳しい現実でした。やっと仕事になれてきた二ヵ月後に二人いた女子社員が突然退社、新入社員の私が来客や社員へのお茶出し、事務所やトイレの清掃、郵便物の整理など所謂雑用を一人でこなしました。与えられた仕事の開始はいつも午後からでした、ですから夜10時、11時は当たり前で、徹夜になることも度々でした。このような状態が1年も続いたでしょうか。経理マンを目指し、志多く踏み出した実社会でしたが、この辛い現状に退社を考えました。まさに過酷な20歳代でした。

このような時にある訪問先で目にしたのが「いやいや仕事をする人間、それは牛馬と同じだ！智恵を出せ、汗を出せ！何も出ない者は出ていけ！」の標語でした。この瞬間、辞めたいと思う気持ちが砕けました。与えられた仕事は気持ちよく楽しくやろう、俺は人間なのだから・・・この標語にショックをうけた21歳の時の収穫でした。

36歳の時、第一次オイルショックのときにも悩みました。農機具に使う油圧装置の生産が間に合わず工場のラインが止まる事態になりました。特約店からのキャンセルが続出。油圧装置の生産を委託していた滋賀県の工場に応援を出して対応することが決まりました。茨城県から滋賀県の工場への応援ですからほとんどの社員は「行きます」とは言ってくれません。応援の期日が迫っています。

このときに私の「気が優しくて穏やか、自己主張ができない」性格がマイナスに作用しました。言うべきことが言えない、気が焦れば焦るほど何の手も打てない私が居ました。

このときに目にしたのが「人間の無限能力を信じ、勇敢に不可能に挑戦する」というある大会社の社是でした。特に「勇敢に不可能に挑戦する」の一言に大きな感銘を受けました。

直ちに、一人、一人面接をし、そして納得のいくまで話し合いを続けることに徹し、延べ100人を滋賀県の工場に派遣することができ、一ヶ月後には生産が軌道に乗り、危機を脱することができました。

40歳の時に管材を扱う商社に転職しました。バブル期のど真ん中、業績を伸ばし、10億円の売り上げを10年間で5倍増の50億円を売り上げるまでに成長しました。「好事、魔多し」の言葉が有りますが、バブルの崩壊です。売り上げが激減、会社の経営が危うくなった60歳の時に目にしたのがある老舗の「商は笑なり勝なり」の社是でした。

売り上げ一辺倒から、お客様を大切にと言う、商売の原点に還ろうをスローガンに決め、会社を盛り立てようとしていた時でした。

優秀な社員は退社し、銀行融資もままならず、暗い雰囲気が漂う会社を明るく変えようと始めたのが「おはようございます。いらっしゃいませ、ありがとうございました」の挨拶でした。「商は笑なり勝なり」の言葉は「気がやさしく、穏やかな」私の性格がプラスに作用した素晴らしい体験でした。

その後、会社の業績が回復しないまま倒産の危機を何度も経験し、少しでも楽になりたい、死にたいと駅のホームから線路を覗き込んだことも度々でした。このような時に妻が差し出したのが会長の著書「こだまする生命」でした。

- 私はこの世にただひとり、父母の恵みによりて生を享けたり
- 私はこの世にただひとり、内なる宝を持ちて生を享けたり
- 私はこの世にただひとり、為すべきつとめを帯びて生を享けたり

この生命の大切さを定義づける言葉との出会いにより、これからの生き方について永池会長のカウンセリングを受ける決心がついたのです。そしてご指導を実践し今の私がいます。

毎朝の早朝研修で「生命の覚醒」を唱和する度に、永池会長との出会い、スコーレの学び、そして今生かされていることへの感謝を覚えます。

ありがとうございました。

連　載

父親の役割　③

岐阜ブロック　小寺房征

Ⅲ　日本が危ない

“砂”の家庭に

永池会長は27年前から家庭が危ない、このままでは日本はだめになる、とスコーレを起こされました。日本の家庭が、粘土の家庭でなく“砂”の家庭になっている。家族でなく、個族になっている。家族の絆がない、と危惧され現在まで一貫して訴えてきています。

戦後個人主義が取り入れられ、女性の意識が大きく変わってきました。参政権を始め、男女平等ということで、男性と同じ仕事、同じ給料、同じ扱い。子育ても、家事も、共同でしましょうと言い出しました。女性も働きに出たい、そして給料を得たい。そして、自分の好きなものを買いたい。自分の好きな事をしたいと、どうもゆがんだ自己実現を目指しているように思います。

子育てでも大きく変わってきています。紙オムツが普及してきて、オムツを変える回数も少なくて済む、だから変えるときのスキンシップが減ってきている。オムツも開発されてきて、ぬれて子どもが気持ちが悪いという感覚がなくなっている。子供が生まれてすぐに子供を施設に預け、働きに出る。子供のエゴの育成に一番必要な時期にである。また、子供はいじめにあったりする、私もよくいじめにあった、しかし、家に帰って一晩寝ると、昨日のことも忘れて「行ってきまーす」と学校へ行ったものである。しかし今はいじめにあって家に帰ってきても、鍵がかかっていて、自分で鍵をあけて入る、家庭には母親も、父親もいない明かりもついていない、さびしい家庭に帰ってくることになる。子供たちは学校から、遊びから帰ってきて、「ねえ、ねえ、お母さん今日こんなことがあったんだよ」と話したくて仕方がないのに、お母さんは仕事に行っていて家にいない。大人でも明かりがない暗い家や鍵がかかっている家に帰るのは寂しい。ついつい一杯となります。

ひと昔前、帰宅拒否症というのがありました。一家の主が家に帰りたくないという病気です。夫婦喧嘩をすると夫のほうが家を飛び出し、実家の母親のところに行きそこから会社に出勤する、家に帰ろうとしても足が向かないという病気です。母親が強くなりすぎたり、お帰りなさいと迎えてくれる家族がないと言うことは本当に寂しいものです。次の日には学校へ行けなくなる、これは当然ではないか、家庭のエネルギーがなくなってきているのです。

昨今、家族一緒に朝食をとる家庭が大変少なくなってきています。一週間に三回ぐらいしか一緒にとらないという家庭が多いと統計に出ています、家庭のコミュニケーション、これは朝食しかない、と私は思います。昼食はとても無理ですし、夕食はお父さんが間に合わない、であれば、せめて朝食は一緒にとりたい。朝食を一緒に取り、何気ない会話の中に、幸せをかみ締めたい、ところが、家族がそれぞれに朝食をとり、それぞれの勤め先、学校へ行く。子供が学校へ行く前、朝食に何を食べていったのか、どのような服を着て行ったのか、顔色はどうだったのか、元気そうだったのかも知らない母親がいます。そこに家庭というものがあるのでしょうか。人間は動物である、その動物以下の子育てをしている、子供を育てるということに喜びを感じない、自分の生んだ子を自分の手で育てようとしない、子供の信頼に応える、わが子を育てるということに喜びを感じなくなってきているのではないでしょうか。

人生学講座

調和のとれた生物界

動物の世界において、オス、メスの役割が、見事なまでに調和がとれていることは良く知られていますが、人間のあり方を見た場合こうした生物界のことを、考えずにはいられません。ある歴史家によると文明の滅亡には法則があるといいます。つまり過去、地球上に出現し、絶頂を極めた大文明がいくつかあるが、滅びに至った文明にはみな共通の、特徴があるといわれています。それは、勤労精神の欠如、道徳的腐敗、男女の中性化、これらが今の世界にみな当てはまっています。ということは人類、文明の滅亡に向かっているということです。

Ⅳ　父親の権威の低下

大黒柱としての役割

父親の権威の低下が叫ばれてから久しいが、この背景として、女性が高校だけでなく、ほとんど大学へ行くようになったことがある様に思われます。インターネットなどで、いろんな情報が誰にでも入るようになり、電化製品の普及によって、時間的にゆとりができ仕事に出るようになりました。それによって経済的にもゆとりができて、男性に頼る必要がなくなり、それに連れて男性も家族のためにどうしても食い扶持を稼がなければならないという意識が薄くなってきています。

給料の振込みによって、夫が家庭に給料を持って帰り妻に渡すということがなくなってきています。このようなことから家庭に於ける父親の存在が薄くなってきています。本来なら家庭に於ける父親の大黒柱としての役割は少しでも残っていなければならないはずなのですが、今はその欠けらもなくなったように思えます。

（つづく）

6月14・15日のマスターズ宿泊研修より(3)

メイ・アイ・ヘルプユーの精神を仕事に生かす

岐阜ブロック　　稲川武美

私のスコーレやマスターズとのご縁の始まりは妻に勧められて参加した当時のミドル研修でした。以来、機会あるたびに永池会長のご講演を拝聴し、ご指導を数多く賜ってきました。

私はここ数年、知識とそれを使い切る「力」について強く意識するようになりました。早朝研修には参加できないものの、妻の影響を受け多少は早起きする習慣が身についてまいり、早朝研修で読まれている会長の著書などで合点がいくものをどのようにして身につけたらよいのかを考えるようになりました。知識を何度も使い、無意識のところ、潜在意識のところまでその知識を自分の体に落とし込まなければ、知識はいざという時に使えないと感じるようにもなりました。

さて、会長の著書の一つである「生き方の基本」の中で「他を活かして、自分を活かす」と「心の富を蓄える」の項に釘付けになりました。「隣人を愛するということは、隣人を活かす付き合いをしなさいと解釈することが出来ます。それを一語で表現するとメイ・アイ・ヘルプユーとなるのではないでしょうか。」と解説しておられる部分です。私は職場で多少なりとも他の人に働いてもらい仕事を進める立場におります。先日、他の部署でのミスを引き合いに出し、私の担当の部署のメンバーに業務上の注意を喚起したことがありました。ミスの原因は最終的に管理者にあることを強調し、その原因は職場内での相互牽制が働かなかったことにあると述べるともに、私は無意識にある発言をしました。お互いに助け合い、声をかけ合いながら仕事を進めていくほうが、各々が独り善がりで仕事をする時より、ミスが起こらず良い結果が出ると話していたのです。将に日常の出来事に対してスコーレでの学びが知らないうちに潜在意識にまで染み込んでいたからこそ、「メイ・アイ・ヘルプユー」の精神に基づいた発言をしたのではないかと考えております。

翻って私は元来、物事にこだわってしまいがちであり、ある意味完璧主義をとってしまう性格です。与えられた仕事を、芸術作品を作るような感覚で質にこだわりすぎ効率の悪い結果となりがちです。最近はバランスよく、とらわれすぎないようにと自分に言い聞かせています。「メイ・アイ・ヘルプユー」の精神を根底に持ち続けることでこうした特性も改善していくだろうと感じています。

当面の行事予定

■12月～3月　下期マスターズ研修（本部研修室）
■12月13日（土）
　首都圏地区交流会（町田エルシー）
■12月14日（日）
　全国一斉ユニセフハンドインハンド募金活動
■1月8日（木）首都圏・新春寿交禮（町田エルシー）
■1月下旬　　マスターズ通信30号（広報委員会）

青	朱	白	玄
春	夏	秋	冬

今年も街路樹などを飾るイルミネーションの話題が聞かれるようになった。以前は余計なエネルギーを使ってエコ問題に逆行すると批判的な意見もあったやに聞く。最近の電飾などは省エネタイプと聞くので、まあ年末恒例のささやかな楽しみの中から醸し出される景色と思えば、腹立たしさも少しは和らいでもらえるのではないか。

エコというと、季節的にはだいぶ外れるが、「打ち水作戦」というのが夏場に行われている。皆で一緒に水を撒くと涼しい風が吹くというもの。涼しさが体感でき、エコに対する意識が自然に生まれる一つの方法となっている。一方で、広域や全国規模でみた場合、成果が見えにくいという意見もある。国際会議で目標数値などが決定され、それに対しメディアや評論家はいろいろ批判するが、専門家の本当の意見が知りたい。

わが国では公の立場、公の場ではなかなか本音が言えない風潮にあるが、映画のセリフではないが「事は現場で起きている」と叫びたくなる現状が北極海の氷量の減少や海面水位の上昇など方々に既に顕在化している。批判はどうでもいいのであって、これからどうするかの対策が重要と思われる。

国レベルの対応ももちろん大事であるが、打ち水に限らず我々の行動の一つひとつが最終的には大きな成果として現れるので、小さいことであっても積み重ねることの意義をもう一度考える必要があるのではないか。　　（梶田健二）

＊編集後記＊

ある経営セミナーにて「戸が外れているのを見ると直そうとするように、人はズレを認識すると直そうとする」と聞きました。故に「ズレを把握する仕組み」「ズレを修正する仕組み」が大切とのこと。そこで考えたのがスコーレのことです。話しを生き方に置き換えれば、それらはそのまま「学び」と「実践」と言い換えることができます。生き方の基本を学び、人生の軌道修正を実践する。貴重な学習の場として、マスターズの役割の大きさを感じます。　　（白石英樹）

編　集：社団法人 スコーレ家庭教育振興協会
スコーレ・マスターズ　広報委員会
発行人：小俣富雄
〒194-0013　東京都町田市原町田4-7-12
TEL ： 042-728-7948
http://www.schole-masters.org